

## 平成 30 年度 事後評価点検表（内部評価）

### 1 事業概要

事業名	一般府道 春木岸和田線
担当部署	都市整備部交通道路室道路整備課道路建設グループ（連絡先 06-6944-9276）
事業箇所	岸和田市岡山町～岸和田市稲葉町
事業目的及び事業内容	<p><b>【事業目的】</b> 本路線は、岸和田市のほぼ中央部において、臨海部の府道大阪臨海線、国道 26 号と、丘陵部の国道 170 号を結ぶ主要幹線道路である。 本事業は、並走する現道の春木岸和田線のバイパス道路として位置づけられているとともに、尾生久米田特定土地区画整理事業区域や府営蜻蛉池公園へのアクセス道路としての機能を確保することを目的とする。</p> <p><b>【事業内容】</b> 道路築造 延長：2.9km 幅員：20.0m（車道 2 車線、両側歩道） ・車道：2 車線（3.25m×2） ・歩道：両側（5.25m×2） ・ゼブラ 2m ・路肩 0.5m×2</p>
関連事業とその現状	—
社会経済情勢の変化	平成 26 年 3 月に尾生久米田特定土地区画整理事業が竣工され、新市街地が形成された。市道山直中福田線～国道 170 号の区間は、岸和田コスモポリス事業に合わせて事業化された。
事業実施による自然環境の変化	特筆すべき自然環境への影響はない。
最終評価時の意見 具申（付帯意見） と府の対応	<p><b>【最終評価時の意見】</b> —</p> <p><b>【府の対応】</b> —</p>

### 2 事業効果の分析等

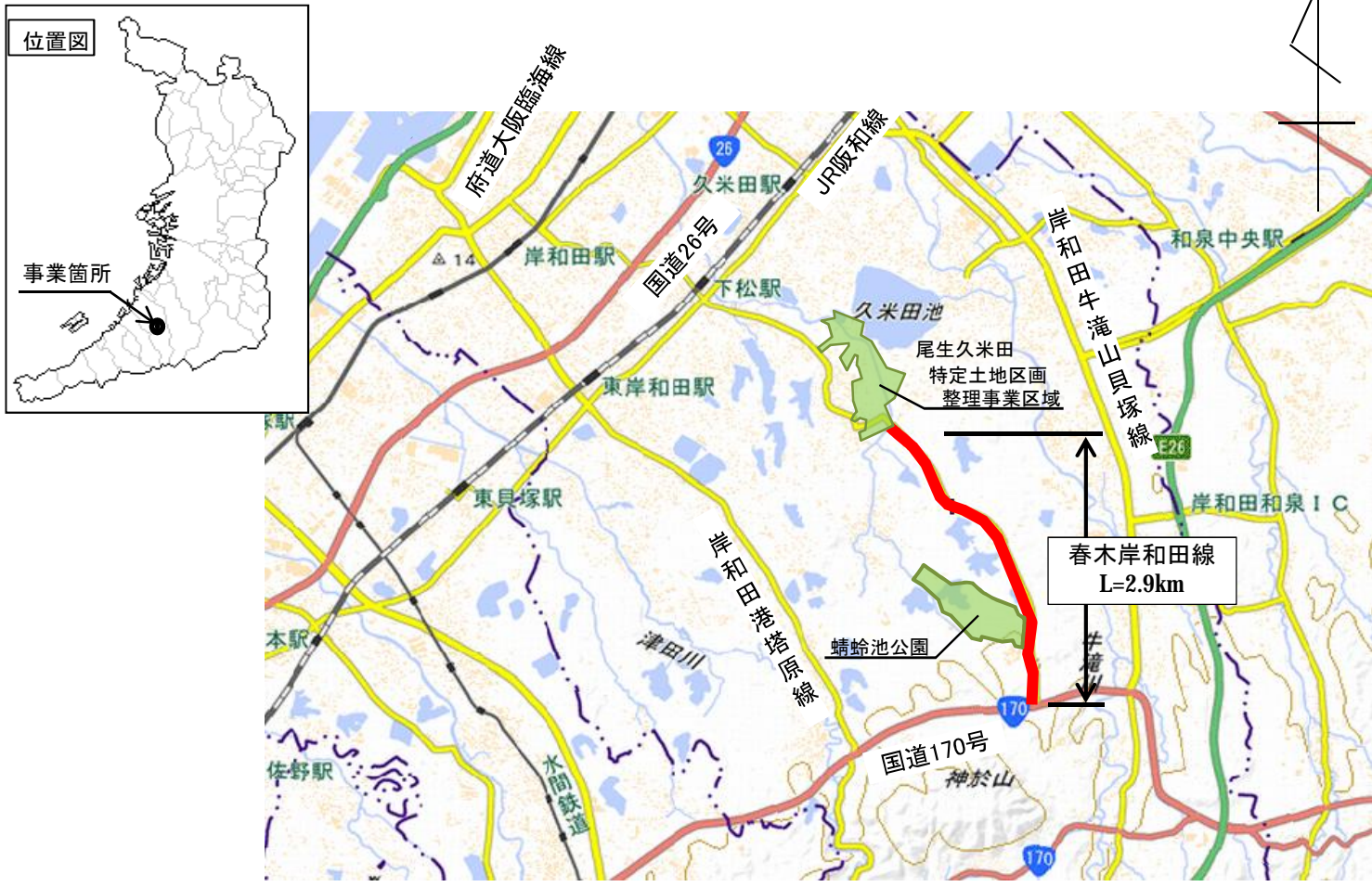
	最終評価時点 H24	事後評価時点 H30	変動要因の分析
事業費	38.4 億円 〔国：21.1 億円、府 17.3 億円〕	38.4 億円 〔国：21.1 億円、府：17.3 億円〕	変化なし
経過 ①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 13 年 ②平成 13 年度 ③平成 13 年度 ④平成 25 年度	① 13 年 ②平成 13 年度 ③平成 13 年度 ④平成 25 年度	変化なし
定量的効果 (費用便益分析等)	<p><b>【効果項目】</b> ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 <b>【分析結果】</b> ・B/C=2.7 ・B= 124 億円 ・C= 46 億円 <b>【算出方法】</b> 国土交通省「費用便益分析マニュアル（平成 20 年 11 月）により算出 <b>【受益者】</b> ・道路利用者、公園利用者</p>	<p><b>【効果項目】</b> ・走行時間短縮 ・走行経費減少 ・交通事故減少 <b>【分析結果】</b> ・B/C=2.8 ・B= 169 億円 ・C= 61 億円 <b>【算出方法】</b> 国土交通省「費用便益分析マニュアル（平成 20 年 11 月）により算出 <b>【受益者】</b> ・道路利用者、公園利用者</p>	概ね変化なし
事業効果の定性的分析 (安心・安全、活力、快適性等の有効性)	<p><b>【効果項目】</b> (安全・安心) ・災害発生時の緊急交通路の確保 ・現道の事故多発箇所解消(活力) ・地域間交流連携の強化 ・物流効率化の支援 ・民間開発の支援(快適性) ・通過交通排除による沿道の生活環境の改善 ・道路線形改良による運転時の負担の低減 <b>【受益者】</b> ・道路利用者、公園利用者</p>	<p><b>【効果項目】</b> (安全・安心) ・災害発生時の緊急交通路の確保 ・現道の事故多発箇所解消(活力) ・地域間交流連携の強化 ・物流効率化の支援 ・民間開発の支援(快適性) ・通過交通排除による沿道の生活環境の改善 ・道路線形改良による運転時の負担の低減 <b>【受益者】</b> ・道路利用者、公園利用者</p>	所期の目的を達している
その他特記事項	—		

### 3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

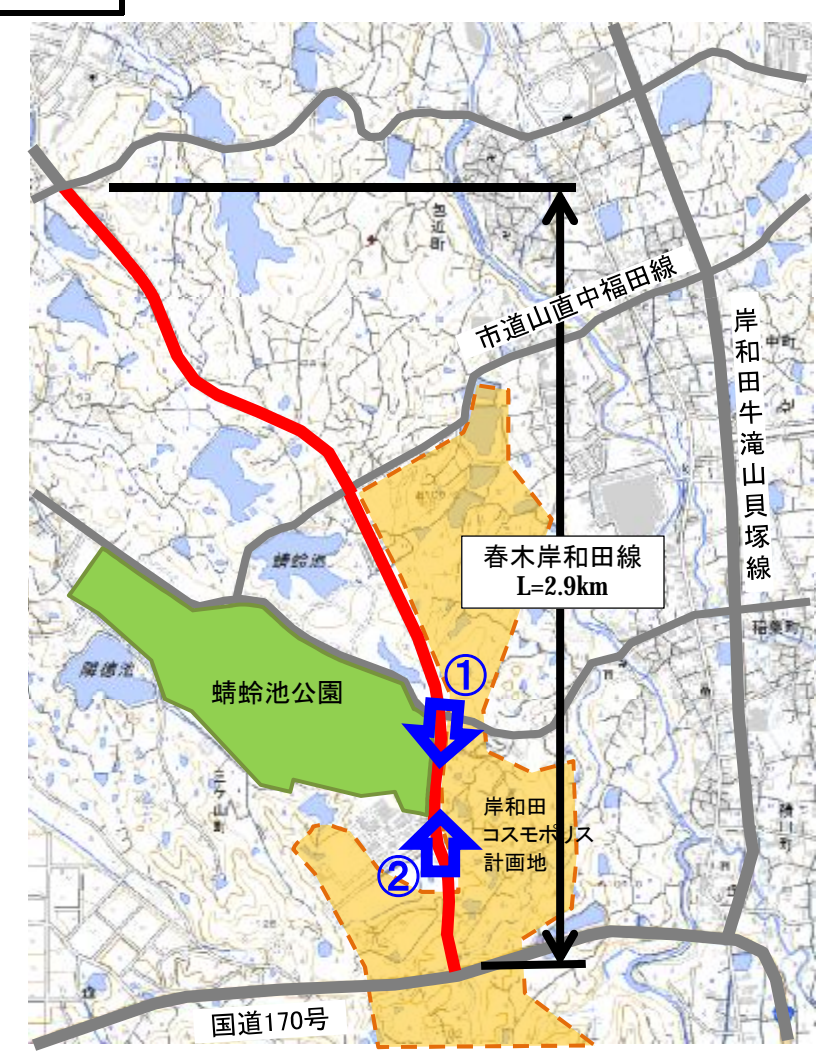
評価結果 (事業効果の発現状況等)	・本路線の整備により、尾生久米田特定土地区画整理事業区域や府営蜻蛉池公園へのアクセス機能が確保された。
今後の同種事業に対する改善措置等	—

平成30年度 事後評価 (一般府道 春木岸和田線 道路事業)

事業箇所図



平面図



現況写真



標準断面図

